

社会福祉法人てつなぎの会

てつなぎニュース

— No.5 —



発行責任者 白坂弘子
 発行元 社会福祉法人てつなぎの会
 住所 〒115-0042 東京都北区志茂 3-11-6
 TEL 03-3903-6160 FAX 03-3903-6301
 ホームページ: <http://tetsunagi.tokyo>
 eメール: tetsunagi@fitcall.ne.jp

子どもとって より良い保育環境とは

理事長 白坂 弘子

つちっこ保育園に寄せられた「もつと教育面で打ち出すべき」という内容のツイッターをきっかけ、子どもにとつていい保育って？てつなぎの会がめざす保育は？自問自答しながら年を越しました。

長年無認可保育園で乳児保育を実践してきた立場で、保育園には三つの役割があると考えています。保護者の方が安心して働き続けられることを保障する役割、子どもが健やかに育つ場としての役割、地域の子育て支援の役割です。それらの役割を自覚しながら、無認可時代から大切にしてきた想いをてつなぎの会に引き継いでいきます。

一つめと二つめは、延長保育、休祭日保育、一時預かり保育や職員の保護者に寄り添う対応など目に見えやすいので、理解されやすいと思います。保育内容については、「〇〇教育をしている」という形ではないので、「一人一人を大切にしている」と言っても日々の



保育の中ではなかなか保護者のみなさんに伝えきれず、見えてないのかなど。てつなぎの会の理念や保育方針にそつて保育園時代にそれぞれの年齢でどんな力をつけていくのか、お子さんの成長の姿と課題などを保護者会、おたより、連絡帳などで保護者の皆さんにしっかりと伝えていくこと、それに対して保護者が意見を出せること、そして共に育て

育ちあう関係づくりを法人研修のテーマにしていきたいです。一方で、保護者と職員の努力だけで子どもを健やかに育てるのは難しい時代です。非正規雇用が増える中、子どもの貧困が6人にひとりと言われ、学力と大学進学率が親の所得に比例しているという実態があります。どの子も憲法に基づいて健康で文化的な生活が保障されなければなりません。そして、何よりも平和な社会でこそ子どもは希望を持つて成長できます。職員にはそんな子どもをとりまく状況にも目を向けてほしい、法人としても、引き続き、より良い保育環境をめざして行動していきたいです。

育ちあう関係づくりを法人研修のテーマにしていきたいです。一方で、保護者と職員の努力だけで子どもを健やかに育てるのは難しい時代です。非正規雇用が増える中、子どもの貧困が6人にひとりと言われ、学力と大学進学率が親の所得に比例しているという実態があります。どの子も憲法に基づいて健康で文化的な生活が保障されなければなりません。そして、何よりも平和な社会でこそ子どもは希望を持つて成長できます。職員にはそんな子どもをとりまく状況にも目を向けてほしい、法人としても、引き続き、より良い保育環境をめざして行動していきたいです。

てつなぎ会立ち上げの歴史

その四

今回は、無認可保育所時代のお話です。

つちっこ保育園の前身は、たんぼぼ共同保育園、のいちご共同保育園、すずらん共同保育園、はとぼぼ共同保育園の4つの保育園でした。普通の家を借りての保育園なので、遊びにも工夫が必要でした。一般住宅の押し入れに戸板を渡してすべり台をつくったり、布団を丸めてマットにしたり…◆公団の集会所を保育園にしているところは、反対側で葬儀が行われると、台所を共同に使うため譲り合いながら給食をつくっていました。◆施設の不備や補助金が少ない中での運営は厳しいですが、母親達は「テレビに子守をさせないで」の勉強会を開催したり、「簡単に虫を殺せちゃうってどういうこと？」など学習し合っていました。◆保育士が参加し一緒に学びあいました。「私は預ける人(親)」「私は子どもを見る人(保育士)」になつてしまいがちな昨今ですが、子どもを真ん中に親と保育士がお互いに尊重し合い、成長し合うことが大事にされてきました。◆子どもを真ん中に保護者と保育士が子育て！社会福祉法人てつなぎの会の理念として引き継がれています。

つちっこ六年間の集大成!?

つちっこ保育園

園長 桑原 裕美子

二〇一一年四月、つちっこ保育園開園の年に〇歳児クラスで入園してきた子ども達が、この三月で卒園となります。今思い出してみると、三月三十一日、四つの共同保育園の保育を終えたと同時に、保護者の皆さんの力を借りての引越でした。翌日の入園式はもちろん、保育が始められるよう夜遅くまで準備に追われました。そして無事に行う事ができた入園式に、〇歳児クラスで入園したのが今の年長の子ども達です。

共同保育園時代はほぼ二歳までの乳児保育でした。六年間保育園生活を送る子ども達の成長は、私たちにとって未知の世界でした。木に例えて言うなら、今まで大切にしてきた乳児保育を「根っこ」として、太い丈夫な木になるよう幹作りが幼児保育でした。

木の幹から力強い葉っぱが芽吹いてくれたと実感できたひとつに、今年の十月に行った収穫祭(運動会)があります。年長児は、夏のオリンピックを題材に、色々な動きを取り入れた競技を披露。最後は全身を使って身長より高い戸板越えに挑戦しました。一人一人が自分の目標を見つけ、今持っている力を発揮し、金

メダルを胸に誇らしげでした。また、世界にひとつだけの花の曲にのせた組体操では、友だちと息を合わせながら、一つ一つの動作をびたつと決めていました。一人一人が輝き、仲間と共にたくましく成長した子ども達の姿に感動しました。

この六年間、子ども達や保護者の方、地域の方と一緒に、つちっこ保育園も成長してきました。

夏まつり・秋まつりなどの行事を地域の方々にお知らせしたり、一時保育や体験保育、子育て情報紙の発行など、子育て支援の輪を広げて来ました。子ども達に負けないよう、私たちも、地域になくはならない保育園を目指して、今後も成長し続けていきたいと思えます。



地域の拠点に!

— 六〇年の歴史を礎に —

風の子保育園

園長 藤田 佐和

二〇一二年十一月に認可保育園として開園し、今年で五年になります。そしてさらに、風の子保育園が無認可の共同保育室として練馬の地に生まれてからの時間も加えると、なんと設立六〇年という本場に大きな節目を迎えます。

歴史を振り返っても、決して順風満帆というわけではなかったですが、壁にぶつかった時には、その時その時、風の子に関わる方々が「子どもの為に、保護者の為に、職員の為に」知恵を出し合い、様々な形で力を尽くし、乗り越えてきたからこそ今があります。

思い返すと、無認可の時代、行政の提供するサービスの枠に当てはまらず、困り果てて相談に来る方がたくさんいました。出来る限りその方たちの力になれないだろうか?と悩んでも、無認可では人手もお金も限りがあり、応えられない事も沢山ありました。

認可保育園になり、運営が安定したからと言って、無認可に相談に来ていた人や、どこからも助けを得られない人が世の中からいなくなっているわけではあり

ません。運営が安定した認可保育園になったからこそ、あらためて手を差しのべられる場所になるのではないかと?保育園にいる子どもたちだけが幸せであればいいのではなく、地域にいる子どもたちや大人が、平等に幸せでいられるように、保育園として携わることが出来るのではないかと! そんなニーズや SOS を感じ取り、働きかけることが出来る風の子でありたいと思います。これからの風の子にできる事、目指すことは何かを、改めて考える機会となりました。

地域の子どもたちを地域と共に育てる、その拠点に風の子保育園がなれるように:。

六〇年:皆に育てて大きくしてもらった風の子保育園だからこそ、これからも紡いできた時間や、人とのつながりを大切にしながら、育つていきたいと思っています。ちなみに、下は今年度開かれたOB会の写真です。



一時保育を実施して!!

田無ひまわり保育園

園長 小牧 智子

西東京市では一時保育の需要が高く、認可外保育所時代から一時保育を独自に行っていました。近年では園児が四月から一杯になってしまふことと、専用の保育室もなかったため、一時保育を受け入れることができませんでした。

認可保育所になったら困っている親子の支援に真っ先に行いたいと決め、開設後、在園児も落ち着いてきた昨年の一月から一時保育事業を始めました。

一日五名の利用枠は、ほぼ毎日いっぱい。待機児童の多い一歳児の利用が一番多く、〇〜二歳児の混合クラスのような五人の子ども達で毎日過ごしています。保護者が安心して預けられ、



子どもたちは楽しかった、ごはんおいしかった、また来たいなあという思いになれるよう、担当者を固定して、家庭的な雰囲気づくりを大切に保育しています。リピーターの子もたくさん多くいる中では、ひとりひとりの年齢に合った遊びの保障や生活面の自立を促す働きかけをしています。

事業を始めればらくすると、一時保育を利用する保護者が子育てで悩んでいる姿や、保育園に入りたくても入れずに、西東京市内の一時保育施設を渡り歩きながら利用している実態が少しずつ見えてきました。

一時保育でつながった家庭に、親子で参加できる運動会やひまわり市(子ども広場とバザー)、親子で楽しむ「おりがみ劇場」などにお誘いしました。皆さん、楽しみに参加され、街であつてもあいさつを交わすほど顔なじみになるのと同時に信頼関係も築いてきました。お母さん達がホッと息抜きできたり、仕事がかどつたり、悩みを相談出来たりなど、子育てをひとりで抱えないで!と、一時保育室から発信して地域に広がっていきけるような事業を展開していきたいです。



実家みたいな保育園っていいな

小規模保育ひまわりのおうち

園長 中根 千佳子

二〇一五年、子ども子育て支援新制度が作られ、小規模保育事業(〇歳児〜二歳児を対象とした認可保育)としてスタートした「ひまわりのおうち」も、四月で三年を迎えようとしています。施設の改修や運営において公的な援助が受けられる運営費等の補助がでること、施設内の設備や、保育材料も充実させることができ、子ども達、保育者にとつてよりよい環境での保育が可能になりました。

ただ、現実には厳しく、すぐに保育士不足という社会的な問題に直面しました。子ども達が安心して、安全に暮らせるよう、一人一人を丁寧に保育したい思いで職員同士がクラスの枠をこえ、工夫し、協力しあいながら夢中で乗り越えた一年目でした。実は、そのことこそが大切な土台になったと今、実感しています。

クラスの枠を越えて子どもに関わることで、一人一人の子どもへの理解が深まりました。また、担任の枠をこえて、どの保



護者ともよく会話を交わしています。先日、保護者の方に「ひまわりのおうちってどんな園?」と聞いてみました。「実家みたい!」と声を揃えて言っていました。子ども達がのびのび暮らしている場所が、実は保護者の方にとつても安心できる場所になっていたことが嬉しかったです。

日本教育新聞に掲載された記事ですが広島県坂町の教育委員長が「義務教育段階で子ども達の心に種をまいて水や日光、栄養分を与え、以後は自分で伸びていく資質を備えていってくれることを願って……。」という記事がありました。種が育ち、芽が出やすくなるように、乳幼児期に子ども達の「心」という土壌を

丁寧に耕し、愛情という栄養を十分に与えてあげられることが保育園の役割だと思いました。「共育ち」を大切に思いながら、今後、地域に向けて、小規模保育園だから出来ることを職員皆で考えていきます。

職員一日研修開催される！

私たちに求められる
仕事への理解と基本

毎年法人主催で開催する職員の一
日研修を昨年九月一八日(日)につちつこ
保育園で開催されました。

午前に中西新太郎(横浜市立大学)さ
んを講師に迎えて「私たちに求められる
仕事への理解とその基本」をテーマに話
して頂きました。保育の仕事について改
めて考えさせられる機会となりました。

【職員の感想】

◇保育の質を決める最大の力、土台は
「人」であり、人間同士のつながりの中
で子どもは育つし、保育士一人の力では、
子どもを育てることができない。
しっかりと保育をしなければと頭で考え
がちになることが多いが、この話を聞
き、肩の力が抜けたように思います。

◇他者に支えられて初めて人は人にな
る。そして、保育園とは人と人のつな
がり生まれる場であることに共感しま
した。

◇保育者同士がつながるには「すき間」
が大事。保育士に「すき間」がなければ、
子どもや保育士同士も自分を出せる場
所がない。相手を思いやれる心の「す
き間」を大切にしたい。



午後のお話は、保育園に入りたくて
も入れなくて自分たちで認可保育園を
作る運動を進めた両坂薫さん、斉藤真
理子さん(足立区認可保育園づくりの
会)が思いを語ってくださいました。

◇女性が働きやすい社会になって来てい
ると思っていたところがあつたのだす
が、お二人のお話を聞き、現実には、子
育てしながら働くにはまだまだ働きにく
い社会だと知ることができました。自分
たちで保育園を立ち上げた後の活動など
も印象的で感心するばかりでした。

◇認可保育園に入園できなかった時の
思いがたらく悲しい…そんな簡単なも
のではなく、生か死!?位の叫びである
ことが分かった。お母さんたちの話を
聞いて、声を上げる大切さをすごく感
じました。自分たちの思いを広げるた
めの様々な工夫に感心しました。

新入職員研修 春・秋に二回開催

今年度就職して初めて働き始めた職
員及び一昨年の五周年行事に不参加で
三年以内の職員を対象に開催しました。
法人の歴史、理念に基づく保育事業へ
の理解を深めることをねらいとして
開催でした。

講義一 社会福祉法人てつなぎの会
の歴史に学ぶ

講義二 法人理念とは、法人のこれか
らと五カ年事業計画

交流 社会福祉法人てつなぎの会に
求められていること

《職員の感想》

◇てつなぎの会設立までに、いろいろ
な方の思いや努力があつた事を改めて
知ることができました。いろいろな方
に支えられ、今があるのだということ
を忘れずに働かせていただいているこ
とに感謝し、自分でできることをきち
んと行つていこうという気持ちになり
ました。

◇法人理念に込められた思いを知るこ
とができて良かった。てつなぎの会は
その歴史からも保育事業にかかわらず、
困っている人がいれば手をさしのべて
いくという考えにとっても共感しました。

二〇一六年度は、その他に「年齢別
保育実践の交流研修会」、「職種別交流
研修会」が開催され、職員同士良い刺
激となりました。

雑誌の紹介

つちつこ保育園・風の子保育園・田無
ひまわり保育園の主任交流の様子が「季
刊保育問題研究」(全国保育問題研究協
議会)に掲載されました。保育士の研修
でお世話になっていらっしゃる横山順さん(元ク
ラブ保育園 主任)が講師です。保育園
が増えている中で、主任の役割は重要で
「主任保育者の役割と職員集団」の特集
になっています。



編集後記

昨年二月一日に第四号のニュー
スを発行して以来一年ぶりになっ
てしまいました。西東京市に田無
ひまわり保育園、小規模保育ひま
わりのおうちが開園して今年で三
年目です。月日が経つのは早いで
す。法人では、ここ二年研修会を
充実させてきました。園は違つて
も、顔見知りになることで、同じ
悩みを共感し、前に進める安心感
が出てきたようです。(〇)